

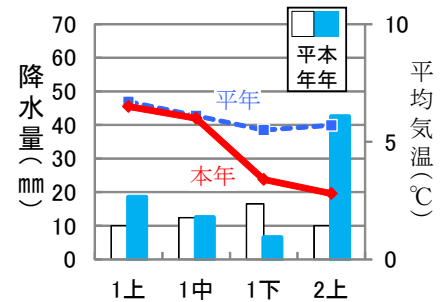
農作業一口メモ

(平成30年3・4月号)

鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

南から湿った空気が流れ込みやすく、向こう1ヶ月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

2月15日発表 高松地方气象台

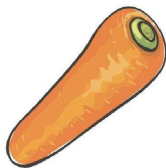


水稻 <は種準備について>



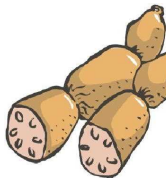
- 本年の水稲栽培の開始が迫っています。余裕を持って、準備作業を行いましょう。
- 種子消毒・浸種（水温10～15℃で8～10日）を適切に行い、十分に催芽後、播種作業を行うようにして下さい。
- 苗の育苗では、種籾の厚まきをさけ、日中・夜温の温度管理に注意しながら健苗の育成に努めましょう。伸ばしすぎに注意します。
- 本田の準備としては、土壌改良資材（ケイカル，含鉄資材，ヨウリン等）を投入していないほ場は早めに必要量を施用し耕耘しておきましょう。

にんじん <収穫・温度管理について>



- 10月は種作は、収穫遅れのないように注意しましょう。
- 生育後期は適度な乾燥状態の土壌・ハウス内の保温に努め、裂根や着色不良を軽減しましょう。
- ホモノハダニが発生した場合は、アファーム乳剤を散布し、ハモグリバエと同時防除しましょう。
- トンネルは収穫前までかけますが、外気には十分馴染らし、にんじんの変質をふせぎましょう。
- 収穫後、果実表面の高温・乾燥・蒸れ等は、変色及びつや低下に繋がるので、品質が劣化しないよう注意しましょう。とり遅れのないように収穫に努めます。収穫作業、調整作業時に大きな機械を使うため、安全確認に努めましょう。

れんこん<施肥と植付について>



- 基肥は、土壌分析の結果を参考に、植え付けの7～10日前までに全面に施しましょう。立ち葉2枚目くらいまでは、種レンコンの栄養で育ちますので、緩効性の肥料を選びましょう。
- 種れんこんは、1株2～3芽の無病のものを選び、芽を傷めないよう、ていねいに植え付けましょう。
- カモ対策として、植え付け後、ポリフィルムのべたがけやトンネル栽培などを行いましょう。
- アブラムシ対策については、雑草が害虫の温床となるため、ほ場やほ場周辺の除草を行いましょう。ウキクサも、アブラムシの発生を助長するので、防除しましょう。

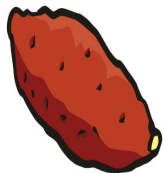


Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

検索

かんしょく育苗、作付け準備について



育苗

- 植え付けは、株間25～30cm、条間25～30cmとし、詰めすぎないようにしましょう。
- 育苗床の地温は、植付け後1週間は15℃くらいに設定し、その後20℃に上げるようにしましょう。気温は30℃を越えないように換気し、徒長を防いでください。乾燥しやすいので、十分なかん水が必要です。
- アブラムシ類、ハダニ類等害虫の発生に注意し、初期防除に努めてください。
- クロルピクリンを処理する場合は、「クロルピクリン使用上の注意」を再確認していただき、事故が無いように注意して処理してください。

本ば（作付け準備）

- 土壌診断を行い、適正なpHになるようを矯正しましょう（最適pHは6.5）。pHが高いと立枯病が発生しやすくなります。
- クロルピクリンを処理する場合は、「クロルピクリン使用上の注意」を再確認していただき、事故が無いように注意して処理してください。センチュウ被害の多いほ場では、D-D剤やネマトリンエース粒剤等で全面消毒しましょう。

だいこん <3・4月の管理について>

- 気温が高くなると急激に成長することが予想され、品質の低下が心配されます。とう立ちや割れに注意し早めの出荷を行ってください。

～土壌くん蒸剤（クロルピクリン・D-D剤等）を安全に使用するために～

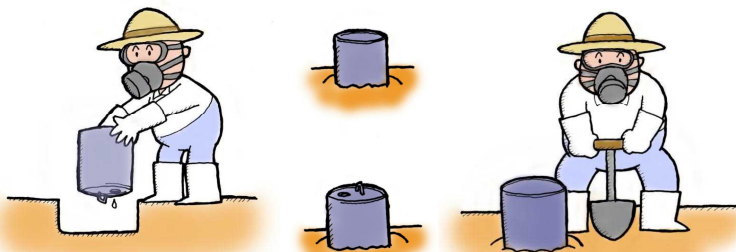
かんしょ栽培に向けて土壌くん蒸剤を処理する時期となりました。

かんしょ栽培のためには必須な薬剤ですが、使用する農家自身や周辺の住民への危被害が問題になることもあります。

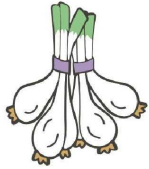
注意事項を守って、事故が発生しないように正しく使用して下さい。

【注意事項】

- 土壌くん蒸剤を使用する時は、事前に圃場周辺や近隣に周知して下さい。特に住宅付近では十分に配慮して下さい。
- 作業を始める前に、必ず注入機が正常に作動するか確認して下さい。
- 必ず正しい防護衣・保護具を着用して下さい。作業中に臭気を感じたら、すぐに吸収缶を交換して下さい。
- 作業中およびくん蒸中には、圃場に人や家畜が立ち入らないようにして下さい。
- 暖くなる前の3月上旬頃までの風のある日を選び、風下での作業は避けて風上で処理して下さい。
- 空き缶は、使い切って、周囲に影響のない場所で、倒れないように逆さまに置き、薬臭が完全に無くなるまで放置して下さい。
- 使用後の空き缶は、お住まいの地域で定められた方法で、産業廃棄物として処分して下さい。



らっきょうく赤枯病の発生に注意しましょう



- 年明け頃から、赤枯病の発生が見られるようになりました。4～5月になると、葉の色が抜けて赤枯病の株を発見しづらくなります。茎の部分が赤く伸びている株を発見したら、できる限り抜き取り、ほ場外で処分しましょう。
- 一次伝染源は種球と考えられますので、次年度の種球は、発生していないほ場から採りましょう。
- 4月以降はさび病が発生しやすくなります。早めの防除につとめましょう。

たまねぎ <3月・4月の管理について>



- 中晩生の品種では、3月中旬が止肥の時期です。遅くまで窒素成分を効かせると貯蔵性を落とすことになるので、遅れずに施肥しましょう。
- 気温の上昇とともに、べと病感染株が春先に発病するため、早めの予防散布に努めましょう。

にんにく <3月・4月の管理について>



- 主な病気は、多雨多湿の環境で発生しやすくなります。定期的（7～10日おき）に銅剤（Zボルドー）を予防散布するのが望ましいですが、できない場合は、大雨や風の強い日の前後には予防散布をしましょう。また、水が溜まらないように排水管理をしましょう。
- 雑草の発生状況をみながら、除草剤を散布しましょう。

レタス <トンネル内の温度管理について>



- トンネル内の温度は、日中25℃以上にならないように管理しましょう。具体的な管理温度は、外葉生育期は20～25℃、結球開始から収穫直前までは20℃を目安とします。
- 大きくなりすぎないように、PK成分の葉面散布剤等を散布し、玉締めをよくしましょう。
- 降雨後速やかに排水できるよう、排水用の溝を設置しましょう。
- 8分結球したら、外葉2～3枚を付けて収穫しましょう。

ブロッコリー<病害虫の発生に注意>



- 気温の上昇とともにアブラムシ、アオムシなどの発生が懸念されるので、苗処理剤等で初期防除を行いましょう。
- 出蕾期に多雨が予想される時は、花蕾腐敗病予防に銅剤を散布しましょう。
- とり遅れると品質を落とすので、適期収穫を心がけましょう。
- ほ場が乾燥すると花蕾の肥大が悪くなるので、適宜かん水しましょう。

【農地を貸したい方・借りたい方へ】

農地中間管理機構を利用してみませんか？

条件が満たせば、協力金が交付されます。

詳しくは、市町窓口又は県農地中間管理機構（TEL:088-621-3083）までご相談ください。

いちご <さちのかの管理について>



【本ぼ管理】

- 3月上旬までを目安に電照を切りましょう。
- 草勢維持と病害虫の防除に努め、ハウス内の通気を良くしましょう（昼間20～23℃、夜温5～6℃で管理）。
- ハウス周辺は除草し、アザミウマ対策に努めましょう。
- 気温の上昇に伴い熟期が早くなるのでとり遅れのないようにしましょう。

【親株管理】

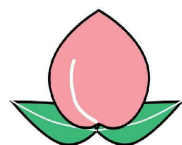
- 3月からは特にハダニ・炭そ病対策を徹底しましょう。
- 3月中に親株へ追肥を行い、株やランナーの充実努めましょう。
- 鉢受けは、4月下旬までに始めましょう。

なし <開花前後の作業>



- 摘蕾 不必要な蕾は早めに除去しましょう。
- 花粉採集 花粉採集用の花は開花前日か当日のものを取り、葯を20～25℃で解約して花粉を採集しましょう。
- 受粉 人工授粉は主に横向きの花そうを選び、1花そうあたり2花程度に受粉を行いましょ。短果枝と長果枝で開花時期に差があるので、開花中に2回行いましょう。
- 接木 台木の芽が動き出した頃が接木の適期です。
- シンクイムシ類対策
慣行のコンフューザーNの5月設置（200本/10a）より、コンフューザーNの3月中下旬設置（150本/10a）＋ナシヒメコンの7月設置（50本/10a）の方が、より低コストではるかに効果的です。
- 開花展葉期はアブラムシ類、カイガラムシ類、赤星病、黒星病の防除期です。薬剤散布を行いましょ。
黒星病の被害芽は、りんぼうが脱落しないので、そのような芽は除去しましょ。

もも <開花前後の作業>



- 接木 台木の芽が動き出した頃が接木の適期です。
- 摘蕾 摘花・摘果作業を少なくするために、枝の真上に付いている蕾や真下に付いている蕾、枝の基部に付いている蕾は摘蕾しておきましょ。
- 受粉 「浅間白桃」、「川中島白桃」など花粉の無い品種には「白鳳」「あかつき」などの花粉を受粉しましょ。
- 開花前は、せん孔細菌病、縮葉病の防除適期です。
- 開花後花卉が落ちる頃は、黒星病とせん孔細菌病、アブラムシ類、アブラムシ類の薬剤散布を行いましょ。

3月1日～5月31日は春の農作業安全確認運動重点期間です！

十分な休憩と睡眠を取り、作業前後の機械の点検整備を行いましょ。

農作業の安全に心掛け、事故防止に努めましょ。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515

